

大問一 問(一)

基準 配点： 1点×5

■模範解答 ※解答例通り（漢字書き取り問題）

- (1) 断章
- (2) 確固
- (3) 覇権
- (4) 余人
- (5) 衝突

大問一 問(二)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点： 14点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

ヴァレリーの言葉は、

B

典拠が不明になるほどの引用の連鎖を生み、

C

あらゆる書物に引用されているということ。(50字)

■採点方法：各要素単独採点

■字数：五十字以内 二十四字以下のは全体不可(0点)

■要素A ヴァレリーの言葉は…4点

- ・傍線部の「ヴァレリーの身体」が言い換えられていないものは、要素A加点点なし

■要素B 典拠が不明になるほどの引用の連鎖を生み…5点

- ・「引用の連鎖がある」、「(そのため)典拠が不明になっていることもある」について、説明していないものは、要素B加点点なし
- 「引用の連鎖」の指摘に3点、「典拠が不明になる事」の指摘に2点

■要素C あらゆる書物に引用されているということ…5点

- ・「引用が数多くされている」という趣旨の説明がないものは、要素C加点点なし

大問一 問(三)

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点
- ・「文脈だった」などの言葉が足りていないものは2点減点

基準 配点… 15点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

かつて国家勢力の衰退を表す言葉だったものが、

B

新たな文脈で解釈され、

C

国家財政の危機を表す言葉として引用されたということ。(59字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A **かつて国家勢力の衰退を表す言葉だったものが…5点**

- ・「もとのコンテキスト」についての説明がないものは、要素A加点数なし
- ・同意例…「以前は国家の衰退に言及するためのものだったが」
- ・国家は欧州・ヨーロッパなど具体例でも可

■要素B **新たな文脈で解釈され…5点**

- ・「もと」のものが「新たなもの」に変わるには「解釈の変化」があるということの説
明がないものは、要素B加点数なし

■要素C **国家財政の危機を表す言葉として引用されたということ…5点**

- ・「新たなコンテキスト」についての説明がないものは、要素C加点数なし
- ・同意例…「新たに国家財政の危機に言及するために使われたということ」
- ・国家は欧州・ヨーロッパなど具体例でも可

大問一 問四

形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

人々が観念的に捉えていた

B

ヨーロッパの優位性のこと。(25字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…二十五字以内 十二字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 人々が観念的に捉えていた…5点

・傍線部「わたしたちの頭のなかにあった」について説明していないものは、要素A加
点なし

・同意例…「人々が漠然と抱いていた」

■要素B ヨーロッパの優位性のこと…5点

・「隠喩」の内容を説明していないものは、要素B加
点なし

・同意例…「ヨーロッパが世界の中心であるということ」

大問一 問伍

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 16点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

すべての認識は何らかの視座によって対象を変形させて捉えたもので、

B

隠喩的な性格をもつため、

C

世界についてのイメージも客観的に捉えることはできないから。(73字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十五字以内 三十七字以下のものは全体不可(0点)

■要素A すべての認識は何らかの視座によって対象を変形させて捉えたもので…5点

・「すべての認識」が「一定の見方によっていて、対象を純粹には捉えていない」ということを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 隠喩的な性格をもつため…6点

・要素Aを受けて、「つまり、すべては隠喩的なもの」であるということの説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 世界についてのイメージも客観的に捉えることはできないから…5点

・要素A・Bを受けて、「世界も純粹には捉えられない」ということを説明していないものは、要素C加点数なし

大問二 問(一)

基準 配点… 2点×3

■模範解答 ※解答例通り(辞書の意味に当てはまればよい)

(1) くじけずに。

負けずに。等

(2) ちょっと演説したい。

威勢よく演説したい。 等

*単に「演説したい」は△減点1点で1点。

*「説教する」は×0点。

*「少し説明したい」は×0点。

(3) ささいな点を批判する。

非難の気持ちを込めて細かなことを述べ立てる。 等

* 「揚げ足を取る」は×0点。

大問二 問(二)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

台所を占領するようにし、

B

要領を得ない手つきで料理をしている娘が

C

邪魔だったから。(39字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…四十字以内 十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 台所を占領するようにし…3点

- ・「娘が台所でまな板を独占している」ということをまとめて説明していないものは、要素A加点なし
- 具体的に説明しているものも可

■要素B 要領を得ない手つきで料理をしている娘が…3点

- ・「娘が要領を得ない手つきで料理をしている」ということをまとめて説明していない

ものは、要素B加点なし

具体的に説明しているものも可

■要素C 邪魔だったから…4点

・「やきもきした」ことを端的に表現した言い換えをしていないものは、要素C加点なし

大問二 問(三)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 16点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

母親との関係でうつぶんが溜まっている中、

B

自分の料理を遅らせながら、

C

焦げ付かせてしまったじゃがいもを美味しいと強がる娘の態度が

D

気に障ったから。(70字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 母親との関係でうつぶんが溜まっている中…4点

・母親との関係での「苛立ち」があるということの説明がないものは、要素A加点なし

・「家庭のことで疲れている」など「母親との関係」と明示されていないものは2点減点

■要素B 自分の料理を遅らせながら…4点

- ・娘が台所を占領したことで自分の料理が思うように進められないことが「苛立ち」を感じさせているということの説明がないものは、要素B加点数なし
- ・料理の遅れが明示されていないものは2点減点

■要素C 焦げ付かせてしまったじゃがいもを美味しいと強がる娘の態度が…4点

- ・「焦げ付いたにおい」が「苛立ち」を感じさせていること、じゃがいもを娘がおいし
いといったことの説明がないものは、要素C加点数なし
- ・「娘」のみなど「焦げたじゃがいも」が明示されていないものは2点減点

■要素D 気に障ったから…4点

- ・「苛立ち」を端的に表現した言い換えをしていないものは、要素D加点数なし

大問二 問(四)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

自分が母親からされたようなしつこい指摘は

B

したくないし、

C

流しに二人が立てないことも事実だったから。(48字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…五十文字以内 二十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 自分が母親からされたようなしつこい指摘は…4点

・母親が自分にしてきたことの説明がないものは、要素A加点数なし

■要素B したくないし…4点

・要素Aを受けて、じぶんはそのようにはしないをということを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 流しに二人が立てないことも事実だったから…4点

・直接な理由として、台所には二人建てでないということを説明していないものは、要素C加点数なし

大問二 問(五)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 16点

■模範解答 ※各要素同意表現可。

A

強い影響力をもつ母親に抗えず

B

不満を溜め込んでいたにもかかわらず、

C

自分も母親と同じ態度で娘に接していたことに気づき、

D

悲しさを感じている。(68字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 強い影響力をもつ母親に抗えず…4点

・母親と自分の関係性についての説明がないものは、要素A加点数なし

■要素B 不満を溜め込んでいたにもかかわらず…4点

・要素Aを受けて、自分が不満を抱いているということの説明がないものは、要素B加点数なし

■要素C 自分も母親と同じ態度で娘に接していたことに気づき…4点

・自分が母親と同じだと気づいたということの説明がないものは、要素C加点数なし

■要素D 悲しさを感じている…4点

・要素A・B・Cを受けて、悲しんでいるということの説明がないものは、要素D加点数なし

・同意例：「悲しむ思い」

大問三 古文（正法眼蔵随聞記）

問(一) 配点…各4点

- 現代語訳の問題
- 採点方法…各要素単独採点
- 字数制限無し
- 形式上の不備 ・文末表現・句読点是不問
- その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問
- 模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c d

(1) 本師は無理にも私の入宋をひき止めなさる

- 要素a 本師は…1点
 - ・同意例：「明融阿闍梨」。先師が話者で本師は師にあたるので、「師」だけでも可とする。
- 要素b 無理にも…1点
 - ・別解：「強引に・身勝手に・むやみに・ひたすら」など
- 要素c 私の入宋を…1点
 - ・「入宋」があれば可とする
 - ・「私」はなくても可。「先師・全和尚」でも可。間違った主語があった場合は、c要素0点。
- 要素d ひき止めなさる…1点
 - ・敬語「なさる」はなくても不問。同意例：「とめる・とどめる」

(2) a 何のb支障がcありましようdか、いや支障はないでしよう。

- 要素a 何の…1点
 - ・別解「何が・どうして」
- 要素b 支障が…1点
 - ・同意例「さしさわり・さまたげ・障害」など
- 要素c ありましよう…1点
 - ・あり+推量「だろう・に違いない・はずだ」も可
 - ・丁寧語はなくても可
- 要素d か、いや支障はないでしよう…1点
 - ・反語であれば可。疑問「あるのでしょうか」などは不可。
 - ・反語の後半「いや…」はなくても反語とわかる解釈であれば可。

問(二)

配点：6点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点の不問

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a

b

c

d

e

f

本師の仰せに背き、宋土に行く道理はどうであろうか。各自、ご意見を述べなさい。

■要素a 本師の仰せに背き：1点

- ・「本師（明融阿闍梨・師）の」＋「仰せ・命令・おっしゃること」＋「背き」で完答。
- ・命令の内容「入宋を延期すること・自分の看護と看取りをせよ」が具体的に補われていても良い。ただし無くても可。間違った内容の命令を説明している場合は要素aは0点。
- ・「その・あの」命令という指示語のままのものも不可。

■要素b 宋土に行く道理は：1点

- ・「宋に」＋「行く」こと・入宋すること 完答

■要素c どうであろうか：1点

- ・「どのようであろうか。」など、是非を問う内容であれば可。

■要素d 各自：1点

- ・「各自・それぞれ・みなさん」など。

■要素e ご意見を：1点

- ・「思っていること・考え」など。

■要素f 述べなさい：1点

- ・「言う・述べる」＋尊敬語「なさる・られる」＋命令・勧誘 完答

問(三)

配点：8点

■心情説明の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限 四十字 以上は採点対象外

■形式上の不備 ・「(だれ)の(どのよう)な(心情)」の形。 ・句読点の不問

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c d e

本師の、自分の看病のために、先師の入宋を延期させようとする煩惱に迷っている心情。

■要素a 本師の…1点

・別解「明融阿闍梨・師」の。

■要素b 自分の看病のために…2点

・先師に、自分の看病または看取りをさせたいということがわかれば可

■要素c 先師の入宋を延期させようとする…2点

・「先師（全和尚）」の「入宋を延期させる」意志や希望がわかれば可。

■要素d 煩惱に迷っている…2点

・要素cのような行動が、仏法でいう「煩惱」にあたることがわかれば可。

■要素e 心情…1点

問(四) 配点…10点

■内容説明の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限 八十字以内 以上は採点対象外

■形式上の不備 ・文末表現「〜こと」 ・句読点は不問

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c d

本師の看病のために入宋をとどまって時間を無駄にするより、入宋して悟りを開き、多くの

e f

人の得道の縁になるほうが、仏法の師の恩に報いることになると考え、入宋したこと。

■要素a 本師の看病のために…2点

・「本師（明融阿闍梨・師）」の＋「看病・看取り」をする

※「本師」のみの場合1点減点

■要素b 入宋をとどまって時間を無駄にするより…2点

・「入宋」を「延期する・やめる」

■要素c 入宋して…2点

・「入宋」を「決行する」

■要素d 悟りを開き、多くの人の得道の縁になるほうが…2点

・人々を仏道に導くことがわかれば可

※「人のため」のみで仏道がない場合1点減点

■要素 e **仏法の師の恩に報いることになると考え**…1点

・ a bより c d を選択するほうが、本師の仏道の弟子としてふさわしい行動であると判断することがわかれば可。

■要素 f **入宋したこと**…1点

・ 実際に行動したこと。

問(五) 配点…8点

■理由説明の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限 六十字以内 以上は採点対象外

■形式上の不備 ・文末表現「〜から・ため・ので」など理由を表す表現 ・句読点は不問

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a

b

c

自分の修行をさしおいても師の看病をすることが、菩薩の自利をさしおいて利他を優先

d

する行いにかなうと考えられるから。

■要素 a **自分の修行をさしおいても**…2点

先師にとっての自利を具体的に説明していること。「修行すること・入宋すること」。

■要素 b **師の看病をすることが**…2点

先師にとっての利他を具体的に説明していること。「本師の看病をすること・看取ること」。

■要素 c **菩薩の自利をさしおいて利他を優先する行いに**…2点

「菩薩の行」を具体的に説明していること。「自利よりも利他を優先すること」

■要素 d **かなうと考えられるから**…2点

「aよりbという態度が仏道・菩薩の行いにかなう」+「から・ため・ので」

* cかdのどちらかに「菩薩の行・仏道」が入っていること。

大問四 漢文 四十点

問一

各2点×2＝計4点

(1) しばらく

(2) なにをもつて(か)／なにをもつて(か)

▼現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらも可。

▼(2)の「か」はあってもなくてもよい。

問二

各6点×2＝計12点

(a) ぶんとどうと／あににじならんや

●以下のように、二分割して採点します。

- | | |
|------------|----|
| ① ぶんとどうと | 3点 |
| ② あににじならんや | 3点 |

▼①↓②の順序になっていない場合は全体として加点なし。

▼読点「。」の有無は不問。

※①「ぶんとだうと」も可。

※②「あににじならん」(＝「や」の抜け)は**2点**(1点減)。

#

#

(b) じんをもとめてじんをえたり／また／なんぞうらみん(や)

●以下のように、三分割して採点します。

- | | |
|-----------------|----|
| ① じんをもとめてじんをえたり | 2点 |
| ② また | 1点 |
| ③ なんぞうらみん(や) | 3点 |

▼①↓②↓③の順序になっていない場合は全体として加点なし。

▼句点「。」の有無は不問。

※①は「じんをもとめてじんをう」「…じんをえたれば」「…じんをうれば」も可。

▼「じんをもとめじんを…」(＝「て」の抜け)は不問。

※②は例外なし。

※③の「や」はあってもなくても可。また「なにを(か)うらみん(や)」も可。

問三

6点

その怨みが少ない／ことなどありえない。

●以下のように、二分割して採点します。

- | | |
|-------------|----|
| ① その怨みが少ない | 2点 |
| ② ことなどありえない | 4点 |

※①「此怨」の訳は「この恨みが」(＝「此の怨」と訓読した場合の訳)と「それでは恨みが」

(＝「此れ怨」と訓読した場合の訳)のどちらでも可。また「少」の訳は「少ない」「ない」

「欠く」のいずれも可。

※②は「曷可……也」を「…ことなどありえない(…わけがない／…はずがない)」「どうして…だろうか(…ことなどあるうか／…したりしようか)」「どうして…だろうか。いや、そんなわけはない」など、正しく反語として訳していれば4点。

▼「どうして…のか」「どうして…のだろうか」は疑問の訳なので不可。

ただし「…のか。いや、…ない」と、「いや」以下を添えて反語の意味を表現している場合は可。

問四

8点

孔子が述べた「怨みはない」に対して、／ 司馬遷が伯夷の伝記を怨みに満ちたものとして描いた点。

●以下のように、二分割して採点します。

- ① 孔子が述べた「怨みはない」に対して、 4点
- ② 司馬遷が伯夷の伝記を怨みに満ちたものとして描いた点。 4点

※①は、孔子が（伯夷について）「怨みはない」と述べていたことを指摘していれば4点。不備があれば2点。

※②は、(1)司馬遷が (2)伯夷の伝記を (3)怨みに満ちたものとして描いたことを、何らかの形で表現してあれば4点。大筋は合っているものの、(1)・(2)・(3)の要素のうち一つでも抜けていれば2点。二つ抜けていれば0点。

問五

10点

伯夷は周に諫言して怨みに満ちながら仁を貫いたが、／ 今の士人には、世を嘆き、不仁を諫め、容れられなければ憤死するほどの怨みがないから。

●以下のように、二分割して採点します。

- ① 伯夷は周に諫言して怨みに満ちながら仁を貫いたが、 4点
- ② 今の士人には、世を嘆き、不仁を諫め、容れられなければ憤死するほどの怨みがないから。 6点

※①は、(1)伯夷が周に諫言して (2)怨みに満ちながら (3)仁を貫いた、という内容を、何らかの形で表現できていれば4点。大筋は合っているものの、(1)・(2)・(3)の要素のうち一つでも抜けていれば2点。二つ抜けていれば0点。

※②は、(1)今の士人（士大夫／知識人）は、世を嘆かず、不仁を諫めない、(2)もちろん諫言を容れられなければ憤死するほどの (3)怨みを持たないから、という内容を、何らかの形で表現できていれば**6点**。(3)の「怨みを持たないから」という要素がなければ**0点**。(3)はあるものの、(1)・(2)の要素に触れていない場合は**3点**。

▼「学者」を「学者」のままにしている場合は**1点減**。